

明海大学 不動産学部

不動産の不思議

学生たちの視点と発見

第222回

【学生の目】

初詣に向かう途中、ミステリアスな住宅が目にとまった。屋根のデザインがピラミッドを連想させるオブジェのような住宅だ。さいたま市にある写真の住宅だ。近年ではあまり見ることがない、洗濯物を庭に干すように造られた昔ながらの戸建て住宅だが、屋根の形状は極めて個性的だ。屋根を尖ったピラミッド型にする理由が気になり調べてみた。

屋根の力

部に水平の棟木が存在せず、屋根の頂点が1点に集まる四角錐になる。このような屋根を「方形(宝形(ほうぎょう)）屋根」という。寺院建築で用いられることが多く、五重の塔などのほか、六角形や八角形の仏閣でも用いられる。方形屋根は頂部が1点に集約されるため、強い印象を受ける。

風水的にみると屋根の尖った部分は家に「気」を集める力が強いといわれている。そのため、瞑想を頻繁に行う宗教建築に適している。玄関ポーチのアーチ状の庇(ひさし)も宗教建築に用いられる唐破風を連想させる。住人の方はどんな人か、室内はどんな造りになっているか、どんな人が設計したのか、訪ねてみたい。建物のもとより、住人の方にも興味を持たせるオシャレな屋根が通りかかった人を楽しませる。

近年の住宅開発は不動産業者がまとめて建てる「建て売り」が主流で

街に欠かせない個性と存在感

方に屋根がかかっている点は共通である。さらに道路側以外は1階まで続く大屋根になっていて、強い印象を受けることに変わりはない。道路側は、2階もしくは1階吹き抜け上部のために採光用の窓が造られていて、方形を崩して愛らしい感じを加味している。大屋根部分が急勾配で、重厚感がないコロンナール屋根の弱点をカバーしている点も特徴である。

ある。合理的な価格で見栄えの良い家を持つことができる半面、没個性になる側面は否めない。個性を表現するには注文住宅になるが、個々の建て主が好き勝手に個性を出せば街全体が落ち着きを失ってしまう。また、近年課題となっている中古住宅の流通市場の活性化の面では、建て主の都合に合わせ過ぎた住宅は、必ずしも高い評価を得ることができない。

【教員のコメント】

木造三階建ての建売住宅が一般化した都市部では壁が住宅を主張する一方、伝統的な住宅では屋根が住宅を主張する。屋根は風土から住宅を守る材料と構法を発展させてきた歴史と精神性があり、それを感じさせる住宅は遺産としての価値がある。



屋根形状がオブジェのような個性的な住宅



武田 亜輝士
不動産学部3年

街並みを壊さず、買って住みたいと思わせる個性的な住宅は「街のムードメーカー」として欠かす事の出来ない存在だと思っ

ない。